昼食論争

梅林中学校　３年　永井　美蓮

「いただきまーす！」

私はレモン。高校二年生。すっぱいものが好きな「酢漬けオタク」。だからレモンと呼ばれている。そして今私と一緒に手を合わせ弁当のフタをいそいそと開けているのが親友のソルト。彼女は「塩漬けオタク」でしょっぱいものが大好きだからソルトと呼ばれている。そんなソルトと私は今日も大好きな昼食の時間を堪能しようとしている。ちなみに私の今日のメニューは大好物のらっきょうをうな重のように白米の上に敷き詰めたらっきょう丼である。

「ねぇ、見てよ。私の今日のお弁当最強なんだよ。」

ソルトがにんまりとし、お弁当を見せてくる。

「うわぁ今日も塩漬けばっかだね。私のも見てよ。私も今日最強ごはんなんだ。」

そう言い、私のお弁当をソルトに差し出す。

「レモン、あんた大丈夫？こんな量のらっきょう食べるなんて。っていうからっきょうと白米なんて有り得ないでしょ。」

「えっ。そんなの食べないでどうして分かるの？らっきょうは最強なんだよ。白米にはもちろん、納豆やのりにも合うしおやつにだってできちゃうんだよ。ほら、食べてみてよ。」

そう言ってソルトの口にらっきょうを放り込む。

「うーん。やっぱり塩漬けのナスやキュウリの方がおいしいかなぁ。」

ソルトが天井を見上げながらボソッと言葉を吐いた。私は悔しくてたまらなくなった。これまでいろいろな酢漬けをソルトに食べさせてきた中で私の大好物のらっきょうだけが受け入れられなかったのだ。ピクルスや酢めしを食べさせたときは「なかなかおいしい。」など褒めてくれていたのに。

私は帰宅するとすぐにキッチンに向かい、らっきょうを取り出し口にした。私はらっきょうを咀嚼し、強く香るにおいを鼻から全身に行き渡るように吸いこみ考えた。どうしたらソルトがらっきょうを好きになってくれるのか。私はらっきょうのおいしさをソルトと共有したかった。悩みに悩んでついに――。

翌日の昼休み、私はいつものようにソルトと中庭に行き、弁当を広げた。私の今日のメニューは白米とらっきょうとピクルス。そして今日はいつもと違うものが入っている。塩漬けのキュウリ、そして食塩である。そう、これこそ昨日私が考え抜いた作戦。ソルトが大好きな塩漬けのもの又は食塩そのものとらっきょうを食べさせてしまえばきっと少しは好きになれるのではないかと思ったからだ。

「ソルト、このらっきょうとキュウリ一緒に食べてみてよ。」

「えぇ～。またらっきょ？本当にレモンはらっきょ好きだなぁ。」

ソルトはブツブツ言いながら箸を私の弁当箱へ伸ばす。そしてゆっくりとらっきょうとキュウ

リをつかみ自分の口の中へと運んだ。中庭をぬるい風が通り抜け私の心を揺らした。
「どう？」
恐る恐る顔を覗く。
「なにこれ！私の大好きなキュウリの塩漬けだよね？おいしすぎる…。キュウリの塩味とらっきょうの酢味が相性良く交ざって白米が進みすぎる。さらにそこにらっきょうとキュウリのパリパリの食感が楽しい！」
ソルトが目をまん丸にしてまさにハトが豆鉄砲を食らったような表情を浮かべた。
「でしょう？次は少しだけらっきょうに塩をつけて食べてみて。」
ソルトは大人しく従いらっきょうに食塩をつけ口へ運んだ。そしてゆっくりと咀嚼する。
「らっきょの味が深くなってる…。らっきょうってこんなにおいしかったっけ…。」
言葉をこぼしソルトは、
「何でこんなにおいしいことに気が付かなかったんだろう。」
と頭を抱えさえした。私はソルトがらっきょうのおいしさを分かってくれてとても嬉しかった。
「うーん。レモンばっかりにおいしいものを食べさせられて悔しいな。明日は私がレモンの苦手なアンチョビを食べられるようにしてやるっ！」
こうして私たちの昼食論争が始まったのであった。